

(別記)

平成31年度浦河町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、日高山脈を背景に太平洋に面しており、丘陵地が多く、櫛歯状に太平洋に注ぐ河川流域に平坦地が分布している地理的条件と、海洋性気候の影響を受け夏は冷涼で冬は降雪が少なく比較的温暖な気候条件により、古くから畜産業、特に競走馬生産を営む農家が多く、米の生産数量調整が開始された昭和40年代以降は、更に畜産業への経営転換が進み、現在では、全耕地面積に占める田面積の割合が5.5%を下回る状況にあり、水田からの転換作目は飼料作物が大半を占め、水田地帯においても、水稻と肉用牛生産の複合経営を行う農家が多い実態にある。

近年は、当町の主要農業である競走馬生産が産駒の販売不振により厳しい経営環境に置かれ、肉用牛生産や施設園芸など他の作目との複合あるいは経営の転換が課題となっている。

また、後継者のいない農家の高齢化が進み、今後荒廃農地の発生や農村集落の空洞化が懸念されている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

年々作付面積が減少している主食用米については、生産の目安を遵守しつつ、作付面積を維持していくことを基本とし、近年取り組んでいる特別栽培米の作付面積の拡大を普及促進するとともに、地域内での消費流通により安定した需給体制を目指していく。

(2) 非主食用米（飼料用米、米粉用米、新市場開拓用米、WCS用稲、加工用米、備蓄米）

当町においては、畜産業主体の農業構造であることから、飼料作物への転作が主として行われており、水田転作による非主食用米の作付実績は皆無であるが、今後、主食用米の作付面積が生産の目安を上回る場合においては、非主食用米への取組について普及推進する。

(3) 飼料作物

飼料作物については、生産性と品質の向上への取組を推進し、飼養家畜あるいは畜産農家への安定した供給を図るとともに、作業効率の向上を図るため、農地集積による団地化形成を推進していく。

(4) 麦、大豆、そば、なたね

畜産業主体の地域性から畑作物への転換は皆無であるが、今後地域の状況を見ながら畑作物への転換も視野に入れ普及推進する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

「いちご」、「アスパラガス」、「花卉」については、地域振興作物のうち、重要作物と位置付けしており、今後生産の拡大と品質の向上を図る取組を推進していく。

とりわけ「いちご」については、当町の重要施策である新規就農者への推奨作物として位置付けしており、今後更なる生産拡大を目指している。

(6) 畑地化の推進

主食用米の作付面積の拡大を普及促進するとともに、飼料作物等へ転換し今後水田として活用する見込みのないものについては、畑地化を推進していく。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	38.4	35.6	35.6
飼料用米			
米粉用米			
新市場開拓用米			
WCS用稲			
加工用米			
備蓄米			
麦			
大豆			
飼料作物	416.2	419.0	419.0
そば			
なたね			
その他地域振興作物			
野菜	6.8	6.8	6.8
・いちご	1.0	1.0	1.0
・アスパラガス	0.7	0.7	0.7
・その他	5.1	5.1	5.1
花卉	1.4	1.4	1.4

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度(実績)	目標値
1	飼料作物 (耕畜連携)	生産性・品質向上等 取組加算	作付面積 実施面積	(30年度) 416.2ha (30年度) 10.9ha	(32年度) 419.0ha (32年度) 12.5ha
2	いちご アスパラガス 花卉	高収益作物	作付面積 反収	(30年度) 3.1ha (30年度) 2,821 kg/反	(32年度) 3.3ha (32年度) 3,800 kg/反
3	基幹作物 野菜	地域振興作物助成	作付面積 販売額	(30年度) 5.1ha (30年度) 911万円	(32年度) 6.0ha (32年度) 1200万円
4	飼料作物	飼料作物団地化加算	作付面積 団地化面積 作業時間	(30年度) 416.2ha (30年度) 115.1ha (30年度) 107時間	(32年度) 419.0ha (32年度) 126.6ha (32年度) 60時間

※必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。